

平成 27・28 年度

大分県租税教育推進協議会委嘱

租税教育公開研究発表会

〈研究主題〉

自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもの育成

～言語活動を取り入れた授業を通して～



平成 28 年 11 月 25 日(金)

玖珠町立 北山田小学校

目 次

I	研究主題と主題設定の理由、研究の進め方	1
	1. 研究主題	
	2. 主題設定の理由	
	3. 租税教育の進め方	
	4. 主題の分析と研究仮説	
	5. 指導方法	
	6. 研究組織	
	7. 研究経過	
II	租税教育全体計画	6
III	これまでの実践	7
	1. 六年生 社会科「天下統一と江戸幕府」	
	2. 一年生 道徳「みんなでつかうものは だれがかってくれたのだろう」	
	3. 三年生 道徳「すすんで はたらく」	
IV	租税教室の開催	17
V	研究のまとめ	18

I 研究主題と主題設定の理由、研究の進め方

租税教育

1. 研究主題

自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもの育成 ～言語活動を取り入れた授業を通して～

2. 主題設定の理由

(1) これまでの研究経過と租税教育のねらいから

本校は、「目を輝かせて学び合う 心豊かでたくましい子どもの育成」を学校教育目標として掲げ、知・徳・体 3 つの重点目標として①表現力(話す・書く)の育成②よりよい人間関係・自律・責任感を中心とした心の育成③健康な体の育成の 3 点を設定し、日々の教育活動に取り組んできた。

このような実態の中、昨年、大分県租税教育推進協議会から「租税教育研究校」に委嘱され、「自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもの育成」～言語活動を取り入れた授業を通して～を研究テーマにし全職員で取り組んできた。各学年、租税教育年間計画を作成しそれに沿って実践してきた。提案授業では社会科も道徳も言語活動の中心として「ペアトーク」「班トーク」を取り入れ、一時間の授業のどこに、どういうねらいや視点をもって活動を仕組んでいくかよく考えおくことが大切であるとわかってきた。また、国語科・算数科ではふりかえりが定着しているが、他教科や道徳のふりかえりはどうあればよいかがが継続課題として残った。

租税教育とは「次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てること」を目的としている。そこで、昨年度初めに、全職員で租税教育をどう捉え、どう実践していくかについて研究・学習していき、本校では租税教育を特別なものとして捉えることなく、教育課程の中にある単元や教材を確認して、そのまま授業していくことにした。これは、周りの人の立場を考えてよりよく生きる子どもやそのための人間関係能力の育成する授業であり、道徳や学活、日常の授業でも話し合いや班トーク、ペアトークを取り組むことが租税教育であると考えたからである。

実際のところ、子どもたちの日頃の会話から「税」について聞かれることはめったになく、消費税のアップが話題になる程度である。また、全国学力学習状況調査の質問紙調査でも身の回りのことへの関心が低いという結果が出ており、地域学習を切り口に社会への関心を高め、視野の広がりを育てているところである。

(2) 今日の社会と本校児童の実態から

現在、少子高齢化社会において、社会・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化などが進む中、就職、進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。

このような状況の中で、学習指導要領では「自らの生き方を考える」「現在及び将来の生き方を考える」などの『生きる力』の育成が学校教育に求められている。この『生きる力』とは、多くのことを学び、学んだことを活かし、そして将来的には「働く力」につながることであると考える。

本校の児童は、明るく、素直で行事や学習に対して真剣に取り組むことができる。しかし、与えられた課題や仕事は比較的こなすが、自分から進んで何かに取り組む姿は見られない。また、限られた友だちの中や学級・縦割りの集団の中でも、自分の思いや考えを言葉で表現したり、発表したりすることが苦手な子どもが多い。

(3)保護者の願いと連携から

核家族化の進む中、本校は比較的三世帯家族が多い。保護者の願いとして「友だちと仲良く過ごし、楽しく安全な学校生活を送ってほしい」「健康で、明るく、心優しい子どもに育ててほしい」「基礎的、基本的な学習の力をつけてほしい」などがあげられる。また、保護者との連携を深めるため、PTA 活動はもちろんのこと、どの学級も懇親会や学級 PTA 行事を積極的に行っている。

(4)教師の願いから

「学習規律と基礎的な力をつけさせたい」「友だちの中で、学級の中で、全校の中で自分の思いや考えを伝えられるようになってほしい」「支えあい、助け合える心優しい子どもになってほしい」と考えている。そのために、楽しく意欲的に取り組める授業を創造していくことや一人ひとりを大切にする学級経営に力を入れている。

上記のような状況から、研究テーマを「自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもの育成」と設定し、取り組んでいくことにした。

3.本校の租税教育のすすめ方

本校では、「租税教育」の目標を下記の4つに設定し、すすめることとした。

(1) 租税教育に関する指導目標

- ① 人間としての生き方を学ぶ
- ② 郷土愛を育む(地域を愛し、地域から学ぶ)
- ③ 集団の一員として行動する(協力する、進んで行動する)
- ④ 税に関する学習をする

(2) 各学年の指導の重点*

	人間としての生き方	郷土愛	集団の一員	税の学習
1.2年	・自分たちの生活をより良くしようとする。	・地域の自然や行事を知り、楽しむことができる。	・友だちと助け合い、一緒に活動することができる。	・みんなで使うものを大切にし、決まりを守る。 ・租税教室に取り組む。
3.4年	・より良い生活を考えたり、適切に行動したりできる。	・地域の文化や伝統を知り、大切にしようとする。	・全校やクラスの仲間と力を合わせて、様々な活動に取り組む。	・公共の仕事や施設の大切さに気づく。 ・租税教室に取り組む。
5.6年	・自分の役割を自覚し、友だちと一緒に目標に向かって行動できる。	・地域の文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心を持つ。	・全校やクラスの仲間の良さを活かして、進んで様々な問題の解決に取り組む。	・税の大切さを理解する。 ・租税教室に取り組む。

4.主題の分析と研究仮説

(1) 主題の分析

○「自他の良さを認める」姿とは

- ・友だちの考えをうなずきながら聞く
- ・友だちの良さに気づき伝える
- ・自分と友だちの考えを比べる
- ・友だちの考えを受け入れる
- ・考えを持ち、進んで考えを発表する
- ・いろいろな考えがあることに気づく

○「互いに伸びようとする」姿とは

- ・友だちの考えや良さを受け入れる
- ・友だちと考えを交流する
- ・自分の考えを肯定できる
- ・友だちの良さを認め、自分の考えを修正できる

○「言語活動を取り入れた授業」とは

- ・考えを交流する場を設定する(話し合い、班トーク、ペアトーク)
- ・振り返りの場を設定する

(2)研究仮説

自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く交流の場を設定し、
学びを振り返る活動を充実させていけば、
自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもに育つだろう

○自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く交流の場を設定する。

- ・ペアトーク、班トーク、全体の話し合い
- ・考えを出し合い、友だちの考えを聞き、比較する。修正する。

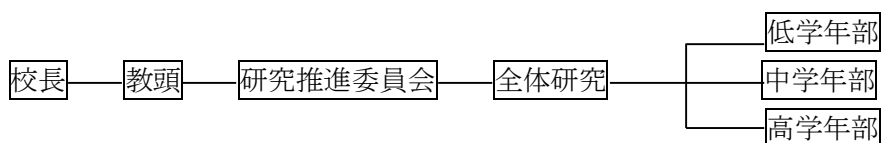
○学びを振り返る活動を設定する。

- ・学んだことや考えたことを振り返りで確認する。授業の反省・評価につかう。

5.指導方法

- ・一時間の授業の中で「言語活動」による話し合い、明確な視点を持たせたペアトーク・班トークや振り返りに取り組んでいく。
- ・租税教育全体計画に沿って、各学年年間指導計画を中心にし、重点を明確にして指導していく。

6. 研究組織



7. 研究経過

(H27 年度)

4/21 (火)	第 1 回校内研修会	・研究の構想について、研究の年間計画
5/20 (水)	第 2 回校内研修会	・租税教育について①
6/03 (水)	第 3 回校内研修会	・国語、租税教育について②
6/17 (水)	第 4 回校内研修会	・租税教育について③
7/01 (水)	第 5 回校内研修会	・租税教育の全体指導計画作成について
7/22 (水)	第 6 回校内研修会	・租税教育について ※広報広聴官より説明
9/02 (水)	第 7 回校内研修会	・租税教育 (6)年事前研
9/16 (水)	第 8 回校内研修会	・租税教育 (6)年提案授業・事後研
10/07(水)	第 9 回校内研修会	・各学年指導計画、アンケート作成
10/13(火)	打ち合わせ	・租税教室の打ち合わせ ※広報広聴官来校
10/21(水)	第 10 回校内研修会	・租税教室の流れ、注意事項など
10/26(月)	租税教室	・2.3.4 限(低・中・高) ※広報広聴官来校
11/04(水)	第 11 回校内研修会	・租税アンケート調査と集約について
11/17 (火)	租税発表会 参加	・由布市立 庄内中学校 (4名参加)
12/02(水)	第 12 回校内研修会	・庄内中学校 発表会の報告
1/20 (水)	第 13 回校内研修会	・租税教育 (1)年事前研
2/03 (水)	第 14 回校内研修会	・租税教育 (1)年提案授業・事後研
2/17 (水)	第 15 回校内研修会	・租税教育のまとめ、来年度の方向性
3/02 (水)	第 16 回校内研修会	・研究紀要の作成

(H28 年度)

4/27 (水)	第 1 回校内研修会	・ 研究の構想について、研究の年間計画
5/18 (水)	第 2 回校内研修会	・ 租税全体計画の見直し、租税教室について
6/01 (水)	第 3 回校内研修会	・ 租税教育の年間指導計画作成について
6/15 (水)	第 4 回校内研修会	・ 租税教育(3)年事前研
6/17 (金)	租税教室	・ 低、中、高学年別 ※広報広聴官来校
6/29 (水)	第 5 回校内研修会	・ 租税教育(3)年事後研 ※指導主事来校
7/13 (水)	第 6 回校内研修会	・ 夏の研修計画、アンケート結果について
7/21 (木)	第 7 回校内研修会	・ 学年部別 指導案作り①
8/3 (水)	第 8 回校内研修会	・ 学年部別 指導案作り②、発表会の全体計画
8/19 (金)	第 9 回校内研修会	・ 指導案全体審議(2.4.5年) ※指導主事来校
9/07 (水)	第 10 回校内研修会	・ 指導案審議(4年)
9/21 (水)	第 11 回校内研修会	・ 指導案審議(2年)、学年部研(掲示資料の検討)
10/05 (水)	第 12 回校内研修会	・ 指導案審議(5年)、学年部研
10/19 (水)	第 13 回校内研修会	・ 指導案審議 再(2年・4年・5年)
11/09 (水)	第 14 回校内研修会	・ 公開発表会 準備
11/14 (月)	打ち合わせ会	・ 司会者、協力者、授業者による打ち合わせ
11/25 (金)	第 15 回校内研修会	・ 租税教育 公開発表会 (2)年(4)年(5)年

II 平成 28 年度租税教育全体計画

学校教育目標

目を輝かせて学び合う 心豊かで たくましい子どもの育成

めざす子ども像

☆学び合う子・・・進んで学習に向かい、真剣に考え学び合う子ども
 ☆心豊かな子・・・自他共に大切にし、人の気持ちを考えることのできる子ども
 ☆たくましい子・・・最後まで粘り強く頑張り、健康な体づくりに励む子ども

北山田小学校租税教育重点目標

1. 人間としての生き方を学ぶ
2. 郷土愛を育む(地域を愛し、地域から学ぶ)
3. 集団の一員としての所属感を持つ(協力する、進んで行動する)
4. 税に関する学習をする

【児童の実態】

- 明るく、目標に向かって努力しようとする姿が見られる。
- 友達関係が固定化している。
- 自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け止めたりして人間関係を築いていく力が弱い。
- 地域とのふれ合いや異学年集団とふれあう機会が少ない。

【家庭・地域の願い】

- 周りの人のことを考え、友だちと仲良く過ごしてほしい。
- 地域を愛し、地域から学び、思いやりの心を持った子に育ってほしい。

各学年の指導の重点

	人間としての生き方	郷土愛	集団の一員	税の学習
1.2年	・自分たちの生活をより良くしようとする。	・地域の自然や行事を知り、楽しむことができる。	・友だちと助け合い、一緒に活動することができる。	・みんなで使うものを大切にし、決まりを守る。 ・租税教室に取り組む。
3.4年	・より良い生活を考えたり、適切に行動したりできる。	・地域の文化や伝統を知り、大切にしようとする。	・全校やクラスの仲間と力を合わせて、様々な活動に取り組む。	・公共の仕事や施設の大切さに気づく。 ・租税教室に取り組む。
5.6年	・自分の役割を自覚し、友だちと一緒に目標に向かって行動できる。	・地域の文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心を持つ。	・全校やクラスの仲間の良さを活かして、様々な問題の解決に取り組む。	・税の大切さを理解する。 ・租税教室に取り組む。

各教科や「総合的な」学習の時間」との関連

(国語) 文学作品等を通じて、人間としての生き方について理解する。	(社会) 郷土、先人の働き、国や地方公共団体、税の歴史について理解を深める。
(算数) 資料を収集し、目的に応じて表やグラフ、数値で表すことができる。	(理科) 自然に親しみ、見通しを持って観察や実験を行う。協力する態度や器具を大切にすることを養う。
(外国語) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、コミュニケーション能力の素地を養う。	(生活) 自分と公共物・公共施設などのかかわりに関心を持ち、それらへの愛着心を育てる。
(家庭) 環境を考え、資源を無駄にしない心を育てる。	(図工) 表現・鑑賞を通して豊かな情操を養う。
(音楽) 郷土の民謡などに親しみ、郷土を愛する心を育てる。	(体育) ルールを工夫するなど、話し合いながら主体的に企画・運営できる力を育てる。
(外国語) 他の国々の習慣、文化、風俗、ものの考え方、見方の違い等に対する理解を深め、国際協調の精神を養う。	(総合的な学習の時間) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。

道徳の時間

<p>《授業において》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の重点目標をふまえ、一人ひとりの児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的態度と意欲の向上を図ることにより、道徳的実践力を育成する。 <p>《重点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土を愛する心を育成する。 ・先人に学ぶ。 ・協力することの大切さ、友情の温かさを学ぶ。 ・物を大切にする心の育成。
<p>《地域との関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーから様々な活動・生活の知恵を学ぶ。 ・地域の活動に進んで参加し、いろいろな人の考えや知恵を学ぶ。 <p>《家庭との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員としての自覚を持ち、家庭での仕事をきちんとやり遂げる。

特別活動

<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を基盤に集団の一員としての自覚を深め、活動する。 <p>児童会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と向上のため、諸問題を話し合い協力して、解決を図る活動をする。 <p>クラブ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの興味関心を大切にしながら協力することや話し合うことの大切さを知る。 <p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活をより豊かなものにし、集団への所属感を深める。
<p>○人権教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを認め合い、支えあう態度を育てる。
<p>○生活指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性を身につけた児童を育成し、楽しく生き生きとした学校生活づくりに努める。

Ⅲ これまでの実践

第6学年 社会科学学習指導案

2015年9月17日(水)
指導者 穴井 有司

1. 単元名 天下統一と江戸幕府

2. 単元目標

理解…キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一、徳川家康の江戸幕府の始まり、幕府の大名配置、参勤交代などの大名支配、身分制度の確立、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、武士による政治が安定したことを理解できるようにする。

態度…織田信長・豊臣秀吉・徳川家康・徳川家光などの人物や、戦国の世が統一されていくころの様子、江戸幕府が大名支配を強め、身分制度を確立していったころの様子について関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究することができるようにする。

能力…織田信長・豊臣秀吉・徳川家康・徳川家光の功績や当時の様子を、肖像画や人物年表、エピソードなどの資料を効果的に活用し、それらの時代の人々のはたらきを考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

3. 租税教育との関わり

税の学習…武士の生活が民衆からの年貢で成り立っていたことを、身分別の人口割合グラフを見て話し合ったり、身分制について考えたりすることによって理解することができる。

4. 主題設定の理由

(1) 児童の実態

男子10名、女子7名の子どもたちである。学習に対する理解力が非常に高く、多くの内容を確実に身につけてきている。数名、授業中の態度が崩れる子どももいるが、基本的な学習の態度がしっかりできている。

これまでの取り組みの中で、社会科の学習においては、資料やこれまでの既習事項をもとにして「自分で予想して考える」活動を多く取り入れてきた。そのことにより、自分の考えを書くことができる子どもが増えてきた。なかなか、考えを書くことができない子どもについては、書く段階において、「自分の考えだからそれを書ければよい。それについては、正解も間違いもないよ。」という声かけを続けてきたが、やはり間違いをおそれて自分の考えを書けない子どもも数名見られる。

発表については、授業中に発言する子どもが決まってくる傾向がある。そこで、ペアトークを行い自分の考えをしっかりと持たせるように取り組んできたが、まだまだ十分でない面も見られる。

税については、これまでの社会科の学習の中で、その時代ごとに収めなければならなかった税について学習してきている。税を納めていたのは農民や百姓たちが主で、そのため生活が苦しかったという思いをもっている子どもたちが多いと思われる。

(2) 単元について

本単元は、天下統一と江戸幕府について追求していくことを主な学習内容としている。

まずは、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の人物調べをおこない、信長が短い期間に領土を拡大したことや、秀吉が検地や刀狩を通して戦国の世を統一したこと、家康が江戸に幕府を開いて、幕府による全国支配を固めていったことをとらえられるようにしている。

また、大名の配置・武家諸法度などの政策を進めることで、江戸幕府が大名支配を強めていったことや身分の違いをもとに幕府や藩が、武士による支配体制を維持・強化し、いっそうの身分の固定化を図ったことがとらえられるようにしている。

さらに、島原・天草の一揆やキリスト教の禁止、鎖国の理由について調べ、鎖国下での貿易の様子や鎖国政策のもとでの外国との交流の様子をとらえるようにしている。

(3) 指導について

この単元においても、資料やこれまでの既習事項をもとに「自分で予想して考える」活動を多く取り入れていきたいと考える。その中で、なかなか自分の考えがもてない子どもについては、机間巡視をしながら「この絵をみて思ったことは？」などと補助発問をしながら考えを書けるように指導して

いきたい。発表させた後、グラフや教科書を見ながら江戸時代の人々の生活についてまとめさせ、身分制の仕組みについて理解させていきたい。その後、「江戸幕府が、身分制をつくったのはなぜ？」と問い、個人で考えをつくったあとペアトークをおこない、発表につなげていきたいと考える。その中で、幕府が支配を固めるために身分制をつくり、武士の生活が民衆からの年貢で成り立っていたことを理解させたい。また、発表をする中で、意見交流をさせながら武士の都合のいいように「身分制」がつくられたことに気づかせたい。

最後に、「もし、自分が百姓だったらどう思うか。」と発問し、身分制に関して民衆側の視点から考えさせる。その中で、人権や平等について歴史的な見方・考え方を深めていこうとする意欲を高めさせたい。

5. 単元の指導計画

学習スケジュール		
天下統一と江戸幕府		
日	時	学習のめあて
	1	信長・秀吉・家康と天下統一
	2	新しい時代を切り開いた織田信長
	3	豊臣秀吉の天下統一
	4	江戸に幕府を開いた徳川家康
	5	江戸幕府による大名支配
	6	キリスト教の禁止と鎖国
	7	江戸時代の身分制と人々の暮らし（本時）
	8	江戸時代の外国との交流
	9	振り返ってみよう

6. 本時案（7／9）

(1) 題目 江戸時代の身分制と人々の暮らしについて考えよう

(2) 主眼 幕府や藩は、武士による支配体制を維持・強化していくために身分制をつくったことを、「身分別の人口の割合」や資料、教科書の文章から身分制の仕組みを読み取り、なぜそのような仕組みが支配するのに都合がよかったか考えることによって理解することができる。

(3) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点	評価・言語活動
5	1. 前時までの学習内容を振り返り、学習のめあてをつかむ	<p>○前時までの学習について振り返る。</p> <p>○江戸幕府が大名に力をつけさせないために政治の仕組みを整えたことやキリスト教の拡大を恐れて、鎖国などを行ったことを押さえる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(めあて) 江戸時代の人々の暮らしについて考えよう</p>	
17	2. 江戸時代の人々の生活についてまとめる。	<p>○拡大した想像図を見せながら「江戸時代の人々はどんな仕事をして生活をしていたのかな」と問い、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米を作っている。 ・商売をしている。 ・何か作っている。 ・武士は勉強している。 <p>○発表させた後、それぞれの身分を押さえ、円グラフを見て、どのくらいの割合でいたか確認させる。また、「百姓や町人からも差別された人々」がいたことも確認する。</p>	

<p>13</p>	<p>3. 何のためにこのような制度が つくられたか考 える。</p>	<p>○教科書の文章を読み、それぞれの身分についてまとめ させる。 武士…7% ※政治を行い、名字を名乗り、刀を差すなどの特権があ った。 百姓、町人（商人・職人）…90%以上 ※年貢を納めて武士の暮らしを支える身分 百姓や町人からも差別された人々…1.6% ※厳しい制約…服装、行事・祭りの参加 ※すぐれた生活用具・芸能…当時の社会や文化を支えた</p> <p>○このような制度を「身分制」ということ、親から子へ 代々受け継ぐものとされていたことを押さえる。また、 同じ身分でも上下関係があり、女性の地位が低く見られ ていたことも押さえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>身分制が、支配するのに都合がよかったのはなぜか。</p> </div> <p>○個人で考えた後、ペアトークを行う。考えの交流を行 った後、発表させる。 【予想される子どもの考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府に逆らう人が出てこない。 ・江戸幕府を長く続けていくのに都合がよい。 ・武士は何もしなくても生活できるから。 ・武士に都合がいいようにつくった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>（まとめ）武士の社会を支えるために幕府は、身分 制をつくり、百姓や町人の生活を厳しく取り締まっ ていた。</p> </div>	<p>(言)「書く活動」 (言) ペアトーク</p>
<p>12</p>	<p>4. 学習したこと をもとに、百姓の 気持ちを考える。</p> <p>5. ふり返る</p>	<p>○「おふれがき」を提示し、自分が百姓だったら、どん な気持ちになるか考えさせ、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年貢もとられて不満を持つと思う。 ・仕事がずっと代われないのはおかしい。 ・武士になりたいと思う。 <p>○本時の学習についてふりかえりをかかせる。</p>	<p>(思)身分のちがいに問題 意識をもち、自分の考えを 書くことができる。</p>

7、考察

①ペアトークや班トークについて

本時では、身分制について押さえた後、「どうして身分制は武士が支配するのに都合がよかったか。」について、自分の考えをノートに書かせた。その後、ペアトークを行って、考えの交流を行った。その後の発表では、子どもたちから

- ・百姓や町人は武士になれないし、年貢をおさめなければならないから
- ・武士は刀をさす特権があり、逆らえないから
- ・百姓や町人に子どもがいたら、必ずその仕事をしなければならないから
- ・身分を変えられなくなかったら言うことを聞きなさいということだから

などの意見が出された。その後、授業者が「武士になれないということは、数が変わらないということ。年貢がいつももらえるということは支配するのに都合がよかったということ。」などの押さえをして、まとめを行った。

ペアトークの活動では、子どもたちは普段どおり考えの交流を行うことができていたが、「武士が自分たちの生活を安定させるために、年貢を納める百姓の支配に力を注いだこと」に気づく子どもは少なかった。その原因として、考える根拠となる資料が少なかったことがあげられる。4活で使用する予定にしていた百姓へのお触書などを提示するなどの工夫が必要であったということが反省点として挙げられる。

②授業全体の成果と課題

(1) 導入について

教科書の挿絵を拡大して貼り付け、何の仕事をしているか予想させるところから授業に入っていたが、子どもたちは挿絵に集中して考えを発表できていたのでよかったように思う。また、円グラフを用いて人数の割合についても押さえていったが、住民の多くが百姓や町人で占められていることを理解できたように思う。しかし、円グラフの提示の仕方については子どもたちに驚きを持たせるために工夫が必要だった。

(2) まとめについて

ペアトークのなかでも課題としてあげたが、まとめを少し授業者が引っ張る形になってしまったのが課題として挙げられる。まとめに向かうために、子どもたちに何を考えさせるのか。また、そのためにどのような手立てを講じるかをもう少し練っておく必要があった。

(3) 振り返りについて

本時において、「もしこの時代に自分が百姓だったらどうおもうか」を振り返りにすることとした。そこで、百姓へのお触書などをここで提示し、子どもたちに考えさせた。子どもたちからは、

- ・仲間を集めて一揆を起こすと思う。
- ・私だったら、逃げ出すと思う。
- ・年貢を納めているので、もうちょっと自由にさせてほしい

などの意見が出された。本時の学習の振り返りとしては今までの学習も考慮しながら書けていたので、よかったのではないかと思われるが、前述したとおりこのタイミングではなく、3活で提示するほうがまとめを受けての振り返りになったのでさらによかったのではないかと思う。

(4) 全体をふりかえって

1時間完結授業は、算数の中では何度も行なってきたが、社会で行うのは自分としても初めてだったのでよい経験になった。算数では、答えを導き出すための主要発問は容易に想像できるが、社会において、まとめにつながる主要発問を行うために、子どもたちに根拠となる資料を提示することが重要であるということがよくわかった。

今回、租税教育に関わる提案であったため、年貢に関する場면을提案授業として行なってきた。しかし、歴史的な観点からみると、一部の上流階級を支えるために、他の人たちが苦しみながら年貢を納めてきた経緯があるので、現在の税金の観点からは少しづれが生じてくるようにも感じた。来年度にむけてどう授業を構築していくか大きな課題であると感じた。

平成28年 2月 3日(水) 3限

指導者 T1 安部 圭子

T2 河野 朋香

1. 主題名 みんなでつかうものはだれがしてくれたのだろう 4-(1) 公徳心・規則尊重
2. 資料名 「やくそくやきまりをまもって」 わたしたちのどうとく 文部科学省
「しあわせのあおいふうせん」 紙芝居 国税庁
3. ねらい みんなで使うもの(公共物・公共施設)は、より良い生活のためにみんながお金を出し合
ってあるということを紙芝居から知ること、公共物を大切に使う態度を育てる。
4. 租税教育とのかかわり
人間としての生き方・・・自分たちの生活をよりよくしようとする。
集団の一員・・・友だちと助け合い、一緒に活動する事ができる。
税の学習・・・みんなで使う物を大切に、きまりを守る。

5. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目は「4主として集団や社会とのかかわりに関すること(1)約束や社会のきまりを守り、公徳心を持つ」である。本内容項目では、生活をする上で必要とされる約束やきまりを守ろうとする態度を育てるようにする。「きまりがあるからまもる」ではなく「約束やきまりは、互いが気持ちよく過ごすためのものであることを自覚して約束やきまりを守る」という態度を育てていくことが大切である。

(2) 児童の実態

入門期生活科の学習で学校の施設や人々と関わる活動を行う際、学校の公共性について学習をした。「みんなで使う物は大事に扱わなければならない。そのために約束やきまりがある」ことは学んでいるものの日常生活では自分の物とみんなで使う物の区別意識が薄く机や椅子の使い方、本の使い方など丁寧に扱えない行動も見られるので道徳や学級活動で指導をしてきているところである。

(3) 資料について

本資料は租税教育で使われた紙芝居の関連作品である。困った事があつたらみんなで助け合おうとする動物たちとそれに従わないきつね。だが、きつねが自分の子どものけがを通して改心する話である。「みんなで使う物はみんなでお金を出し合って作られたり買ったりしている」という公共物に対する新たな認識を持つことができ、物を大切に使う態度につながると考える。

(4) 指導について

紙芝居の内容理解は気持ちの変化が想像しやすいきつねの立場に立って考えさせる。ペアトークやグループトーク、ワークシートの記入を行いながら、きつねが改心した訳について考えを深めさせたい。紙芝居の後日談として公共物はお金を出し合って作られている事を伝え、授業の振り返りでは「わたしたちのどうとく」を活用して学習内容を日常生活へつなげたい。「わたしたちのどうとく」にある書き込みは授業中だけではなく家庭学習でも行わせる。保護者と一緒に考え書き加える事で社会生活にある公共物・公共施設への視野が広まるのを期待したい。

5. 考察

①ペアトークや班トークについて

1年生には「共感的人間関係を育む場の設定（生徒指導の3機能を生かした授業作り）」が重要である。特に道徳のように答えを導き出すのではなく、相手の思いを聞いたり自分の思いを伝えたりしながら考えを深めていく授業では、日頃から培われた共感的人間関係ができているかどうかは授業に大きく影響をする。本時ではペアトーク、グループトークの場面で友好的な語り合いはできていた。しかしそこで終わるのではなく、1年生でも明確なトークの視点を持たせる事が必要であるとの意見をいただいた。

②提案授業全体の成果と課題

○導入

指導の手立てとして紙芝居や絵マークを使ったことは、児童の興味関心につながった。児童の思考にそった板書の工夫もできた。

○まとめ

ふきだしを使った活動では書き込みに個人差が出た。時間配分や内容分類するなど指導の留意が必要であった。1年生において、題材やねらいにぶれることなく児童の興味をひきつけまとめにつなげていくためには、児童の動きに変化をつけるなどの指導流れに工夫が必要である。

○振り返り

「あたらしいどうとく」（文部科学省）を使って振り返りをした。「あたらしいどうとく」は日頃から家庭に持ち帰り学習内容をおうちの人に伝えるよう投げかけている。納税者であるおうちの人と児童が語り合うことで「公共物を大切に使用しなければならない」という意識は増していくであろう。「行動化つながる道徳」の授業にしていくためには、家庭との連携を見通した計画をしていかなければならない。

③租税教育について

租税教育を意識し、道徳の内容項目「公共心・公共物」の中に租税の観点を入れたことに無理があった。公共物を、税金というお金で買ったものであると捉えなくても「公共心・公共物＝租税」と考えての展開で十分である。道徳の内容にある「約束や社会の決まりを守り、公德心をもつ」というねらいをそのまま授業にすれば租税教育になるということが確認できた。



6. 本時の流れ

過程	学習活動	指導及び留意点	備考・評価
5	1. 自分の仕事を確認する。	○タイトルを板書し、自分がやっている仕事、それはどんな気持ちでやっているのかをノートに書かせる。 ○タイトル「はた・らく」に点(・)がある事を確認し資料を読む。	
15	2. 資料を読み「ぼく」の仕事に対する気持ちを考え出し合う。	○登場人物を確認し、挿し絵で話のあらすじをつかませる。 ○「ぼく」がトイレ掃除にやる気が出てきたきっかけをおさえる。 ・「トイレはその家のかがみ」と言ったおばあちゃんの電話の話 かがみには何がうつるのだろう ○おばあちゃんの話の意味を考えさせる。 ・そうじの「やる気」(心)がかがみにうつる。 ○ぼくがそれぞれの登場人物と出会った時の「やる気」をかがみ(円グラフ)で見えていく事を伝える。	挿し絵 円グラフ
		<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; width: 25%;"> <p><おばあちゃんの話 聞く前のやる気> ・トイレそうじはかんたん。 ・やっておけばいい。 *決められた仕事で ある。やればいい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; width: 25%; margin-left: 20px;"> <p><おばあちゃんの話 聞いた後のやる気> ・がんばったら気持ちいい。 ・ほめられた。うれしい。 *家族の人が喜ぶと 自分もうれしい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; width: 25%; margin-left: 20px;"> <p><友だちと会った後の やる気> ・これは自分の仕事なのだ。 *自分の仕事と自覚す ると元気(やる気)が 出る。</p> </div>	
15	3. 「はた・らく」について考え話し合う。	○夏休み中、仕事をがんばったであろう「ぼく」の姿をおさえておく。 「はた・らく」とはどういうことなのだろう ○お父さんは何で「はた・らく」という話をしたのか考えさせる。 ・「ぼく」が仕事をがんばったから。 ・「ぼく」のやっている事はちゃんとした仕事だから。 ・「ぼく」が働いた事ではた(お父さん、お母さん)がらく(楽)になった事を伝えたかった。 ○「まかせて」と大きな声で言った「ぼく」の気持ちを考えさせる。 ・自分も人のために働いていたんだ。 ・働くのはおもしろい。楽しい。これからも続けよう。 ○自分たちの身の回りで働いている人々の気持ちを知らせる。	ペアトーク
10	4. 自分の仕事に対する気持ちを振り返る。	自分たちの仕事は「はた・らく」になっているだろうか ○自分たちがやっている仕事は、自分も周りもうれしい「はた・らく」仕事になっているか確かめさせる。 ○これからどんな気持ちで働こうと思うかをノートに書かせ発表させる。 ○日常生活に結びつけられるよう呼びかけをする。	*働くこと について見 直す事がで きたか。

5. 考察

①「問い」を深めるためのペアトーク

道徳では「問い」が重要である。本時では資料を読み直しながら考える「問い」（主人公のやる気の変化を追う）と、自分の生活経験などを踏まえ働くことの意味を考える「問い」（お父さんの話）を設定してねらいにせまっていた。後者の「問い」は、個々の資料の読み取り方や生活経験の違いで考えの深まりに違いがあり意見も出しにくいと予想されたのでペアトークを取り入れた。友だちの意見を聞いて「なるほど」と思ったり「そうだよ」と共感したりすることが発表意欲につながった。ペアトークの方法は教科や場面によって変わるので、ペアトークの必然性を指導者はきちんとふまえ、どの場面でどのように設定するかをしっかりとっておかねばならない。

②授業全体の成果と課題

○導入

一時間完結の道徳授業で、資料の読み取りを効率よく短時間で行うのは工夫のいるところである。本時では挿絵を掲示したり主人公の行動や心情を探る中心課題を設定して資料を読み返る必要感を持たせたりした。挿し絵を使っての時系列や円グラフで主人公の心情を「見える化」したのは児童が興味を持つことにつながった。しかし資料が長文であるため、内容理解にはさらなる工夫があるとよいとの指摘を受けた。生活経験を想起させたり資料文のキーワードを提示したりするなど考えられるが反面、導入に時間をとられることにもなる。授業全体の配時も考えた資料理解の手立てを工夫しなければならない。

○まとめ

より具体的に自分たちの日常生活につなぐために「わたしたちの道徳」（文部科学省）を併用した。本書には身近で働く人々の仕事ぶりや思いが写真やふきだしで記載されており、児童にはイメージがしやすいと考えた。「わたしたちの道徳」を日常的に使うことで、生活の節目で学びの足あとを確かめていくこともできる。

○振り返り

本授業での振り返りでは、日頃から使っている道徳ノート（方眼ノートに自由記述）を使った。係りの仕事や家庭で受け持つ仕事に対して「もっといっぱい働こうと思った」「今自分がやっている仕事はみんながうれしい気持ちになってくれていると思う」「周りの人が喜ぶような仕事をしてみたい」「もっと丁寧に仕事をしたい」などの感想が発表された。「人の事を考えて働けば、周りの人にも喜ばれ自分もうれしい気持ちになることがわかり進んで仕事をしようとする」という授業のねらいにせまる振り返りができたと考える。

③租税教育について

租税教育の視点にある「集団の一員として進んで行動する」ため、この授業をうけて夏休みの課題に「お家の人を喜ばせる仕事をしよう」と投げかけた。自分の一番身近な集団である家族の一員として何ができるかを考えさせ行動化を促した。子どもたちは進んで仕事に取り組めたようで、夏休み明けお家の方からもらった一言を読み、喜んでいた。その後児童集会でも学習の取り組みを全校に発信することができた。「はた・らく」（働くことが周りの人を楽にする、楽しい）ことをより実感できたようである。

IV 租税教室の開催

H27.10月とH28.6月に低・中・高学年別に大分税務署の税務広報広聴官の方にご協力いただき租税教室を開催した。その日をフリー参観日にして保護者にも参加してもらった。回を重ねるにしたがって児童の税への関心が高まった。

租税教室では、児童の発達段階に応じて、紙芝居やアニメビデオ、ゲームなどを通して、公共施設と税金の関係や所得によってどう税金を出し合うかなど、子どもに考えさせたり分かりやすく説明したりしてくれたことで、児童も生活と結びつけて考えることができた。



(児童の感想)

わたしは、そせい教室
でビデオを見てせい
金は大切でみんな
のためにあることが
わかりました。

ぼくは、税のことについて、あまり
知らないことがあったけれど、税の
ことについて教えてもらって、税はいろいろ
な種類があることや、税金はみんな平等に
はらっていることがわかりました。

ぼくはこの学習でやはり
税は大切だなと思いました。
また、税は色々な使い道が
あり、学校や公園も税で建
てられていることがびっくりしました。

私は、租税教室で、みんなと、ロケット
をつくるのに、3つのチームがそれぞれ
いくらたすのかを考えるのは、とても楽
しく、勉強できてよかったです。

V 「租税教育」研究のまとめ

1. 研究主題・仮説より

- ①自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く交流の場を設定し、
- ②学びを振り返る活動を充実させていけば、
- ③自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもに育つだろう

① 自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く交流の場を設定について

ペアトーク、班トーク、全体の話し合いなどを各授業できちんと位置づけてきた。そのことにより、どの学年も「自分の考えを友だちに認められる」「友だちと考えを聞き理解が深まる」「自信を持ち発表が増える」といった姿が多く見られるようになった。これは、少しずつ「自他の良さを認める」「互いに伸びようとする」姿に近づいてきているといえる。

研究授業では、指導者自身が何のために、どういう意図をもって、この場所にペアトークや班トークなどの言語活動を位置づけたのかということをしかりと持っておくことと、子どもにはっきりとその活動の視点を与えおくことが重要であることが明らかになった。



② 学びを振り返る活動を充実させていく活動について

国語や算数については、学習用語や授業内容など一定のきまりに沿ってふりかえりが定着できている。しかし、社会やその他の教科・道徳の振り返りについては、改めて難しさを感じた。

提案授業の社会科では「自分が百姓だったらどう思うか？」でふりかえりをし、道徳では「みんなが使うものをどのようにつかえばよいか？」書きこませてふりかえりにした。上述のふりかえりの場合、いくつかの振り返りを全体で交流させる必要もでてくるし、一時間の評価にもかかわってくると思われる。ふりかえりの内容の吟味と時間の確保が大切になってくることがわかってきた。

ふりかえりの仕方の研究を続けていくことで、3年生では、心の変容や気づきなど深まりのある内容が書けるようになってきた。また、4年生では、「〇〇と考えていたけど、

〇〇さんの意見を聞いて〇〇と思いました」や「今日の学習で〇〇がわかりました。次は〇〇の勉強がしたいです」などの例を提示して書かせていくことで内容が充実してきた。

そして、全学年ふりかえりをさせていくことで、言語活動の「書く活動」を保障することができているといえる。

③ 主題「自他の良さを認め、互いに伸びようとする子どもの育成」ができたか。

○提案授業・互見授業・教師アンケートより

どの学級も、上記の言語活動の充実や様々な学級指導の中で、良さを認め合い互いに伸びようとする姿がよく見られるようになってきている。

例えば、低学年では「友だちの方を見て話を聞く」（友だちの発表に対して）「わかりました。良いです。と反応できる」「自分の考えをもつ」「うなずきながら聞く」「友だちの考えの良さに気づく」ことができるようになってきた。中学年では、「話し合いのときお互いの考えの良さを認め、良いところは取り入れる姿」や「帰りの会で、友だちの良かったことを発表する姿」がよく見られるようになってきた。高学年では、「ペアトークで友だちの考えを認め合い、自分の考えを修正する姿」、(考えを)「出し合うことに抵抗がなくなり、自分の考えと比較しながら聞く姿」「自分との考えの違いを受け入れる姿」が増えてきた。

○児童アンケートより

(学校評価 児童アンケートより)

全校児童(◎と○の割合)	H26. 3	H27. 3	H28. 7
a. 学校の決まりを守っているか	91%	95%	96%
b. 友だちの気持ちを考えた言葉づかいをしているか	82%	91%	94%
c. 地域の人と勉強するのは、楽しいですか	91%	93%	93%

(5年大分県学力調査の質問紙より)

質問内容	全国と比べて
d. 学校の規則やクラスで話し合っ決めて決めたことを守っている	+43.4
e. 公共の場所や乗り物の中では、人に迷惑をかけないようにしている	+21.0

(6年全国学力・学習状況調査の質問紙より)

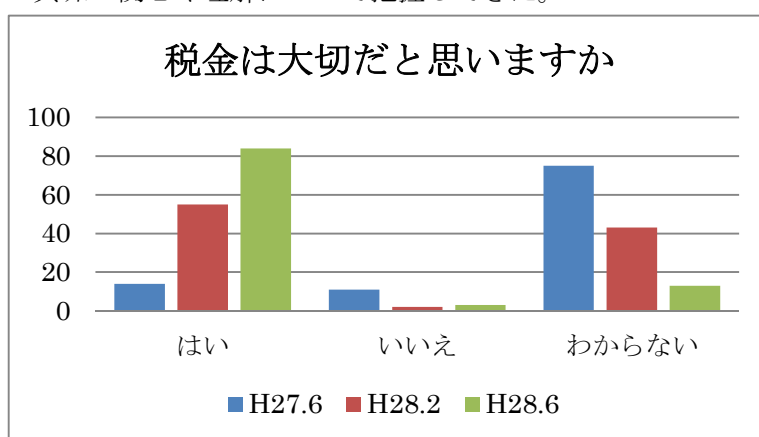
質問内容	全国と比べて
f. 人が困っているときは、進んで助けていますか	+24.1
g. みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	+30.4
h. 学級会などの時間に友だち同士で話し合っ決めて決まっている	+32.6

a. d. e. h から公共心や規範意識が、b. f から自他の良さを認め合う心情が、c から郷土愛が向上している。要因として、以前からの取組に加えて、租税教育の指定を受けての取組が考えられる。

2. 租税教室について

○租税教室については、昨年度 10 月 26 日と今年度 6 月 17 日に行った。教科とは違い、直接「税」の学習であり、DVD や紙芝居・ゲームなどを利用し、税務署の方がいねいに指導してくれたので、学年に応じた「税」の理解につながっていた。

○税についての校内アンケートも H27.6 月、H28.2 月、H28.6 月と実施して税に関しての興味・関心や理解について把握してきた。



この結果、税や税金の意味や使い方・税金の大切さを理解してきていることが分かる。また、分からないことや知りたいことも、租税教育や租税教室を行うにつれて、より具体的な内容になってきていることが分かる。(アンケート結果 参照) 今後もこの実態を考慮して租税教室を実施していく必要がある。

3. 今後の取り組みについて

租税教育の指導目標を ①人間としての生き方 ②郷土愛 ③集団の一員 ④税の学習として、教育課程を4つの観点から整理し、横断的・縦断的に捉えなおすことで、それぞれの学習がつながりより深い学びを実現できてきている。

また、全員の教職員が「教育活動の全体を通して租税教育」の視点を意識して授業を行うようになっている。また、一時間の授業の中に「ペアトーク・班トーク」をどんな視点で、どこに位置づけるか、「ふりかえり」をどう仕組んでいくかなどの言語活動の充実を日常から考えるようになっている。

その結果、友だとの考えと自分の考えを比べたり、友だちの考えのよさに気づいたりでき、そのよさや考えを受け入れる子どもの姿が多く見られるようになってきている。

今後も、主題である「自他の良さを認め、互いに伸びようとする」子どもを育てていくために、全職員でこれまでの教育活動を継続・発展させていく必要がある。